



湯河原R C 創立35周年を祝して

創立時分区代理 岩崎 裕 俣

湯河原R C 創立35周年を心からお祝いいたします。昭和37年 4月20日金曜日、この日は本日の様に 爽やかに晴れてその頃、湯河原の金曜日の昼下がりには静かで時々バスの通る音が遠く聞こえる以外はウグイスの鳴く声が椎や檜の古木の繁った合間から聞えて来る、流石由緒ある古い温泉の風影であるとおもわされました。古木の繁みを後に大きな瓦屋根の重なる天野屋の奥まった会議室の窓には、春の日が燦々と輝くどっしりと落ち着いた室で、野鳥の鳴く声を聞き、まことにのどかな気分で創立総会が開かれた。私は今日まで20数回の創立総会に出席しておりますが、湯河原R Cの創立総会のような環境の中での創立総会は他に例がありません。その環境にぴったりの雰囲気醸されて、中村ガバナー、宮坂特別代表が中心になって順序よく総会が進められ、すべてが了り天野会長の就任の挨拶、中村ガバナーの挨拶と関係者への労いの言葉があり、柳瀬P Gの祝辞があった。この中村、柳瀬さんのお二人の立派な指導者もすでに故人になりました。柳瀬さんは私の関係したすべての会合には必ず出席して頂きました。当日は佐久間P G、清瀬拡大委員（後のガバナー）小田原R C会長、幹事が出席されて創立総会は無事終了して湯河原R Cが誕生した。

この年度、私は8つのR Cを推進しましたが湯河原R Cは7番目の誕生になります。この誕生に関わられた、R. I元副会長、パストガバナーの湯浅恭三さん、30周年記念に駆けつけて、お祝いして下さいましたが、一人健在で御座います、95歳の伯寿、おそらく本人も今日の35周年記念式典にこられるものなら駆けつけて、皆様と堅い拍手をして、供に祝いたいと思っておられる事でしょう。

小田原R Cの皆さんは大変慎重で、中村ガバナーも、私も少ししびれを切らしました。私が特別代表を指名しましょうかと申し上げると是非にこのことで、湯河原に宮坂さん、箱根に今井さんを指名したら皆さん大賛成でそれ以来湯河原も箱根順調に進行して、湯河原は四月、箱根は五月創立総会の開かれた事は35周年に当り懐かしい思い出です。湯河原R Cは創立総会の環境と雰囲気を基調にするかのように、天野会長の洗練された指導と運営により、まとまりのある又正しく積極的に行動する楽しい例会の開かれるR Cとして、私に深い印象を与えました。加藤福松幹事は大変有能で、勉強し実行する幹事として今も深く私の印象に残ります。先程お会いして名刺をいただき、再会をよろこび合いましたが、当時のS A Aの八亀さん例会の食事の工夫も特筆に当たります。ざるそば、厚いこんなに大きなトンカツ、天井、太い海老フライと色々の美味しい料理を頂きました。他のR Cでは到底味わえない食事でした。現在でも、天野屋さんが例会場で、やはり天野屋さん特製のお料理で、うらやましい限りです。

湯河原という古い伝統と由緒ある観光地によく密着し地域にとけこみ、R Cとしてまことに均整のとれた活動、一人一人立派な会員を擁してこの地域の人口の中でよく南R Cを拡大し、堅実にして着実に然も品位のあるR Cとして発展された、一番手数のかからなかつたクラブ、一番楽しいクラブ、最っとも楽しい思い出のクラブです、30周年の時おみやげに頂いた椿の苗、まだ花が咲きませんが花が咲くのが楽しみにしております。

楽しく、35周年を迎えられたことに、尊敬とお慶びをもつて重ねてお祝いを申し上げます。

来賓挨拶

湯河原町 町長 米岡幸男

創立35周年を迎えられました、ロータリークラブの皆様にご心よりお祝いの言葉を述べさせていただきますと思います。

会員の皆様の堅い結束のもとに35年に渡りまして、多くの事業活動を行いながら、地域の発展の役割を果たして下さいました歴代の役員の皆様を始め会員の皆様のご努力に対しまして、御礼を申し上げます。

先程は来年国体に使われます湯河原町の総合運動公園、ここに植栽の目録を頂戴いたしました、町民の皆様が変わりまして厚くお礼申し上げます。

私も18年ほど前に湯河原クラブに所属をしまして、皆様にお世話に成りました、昭和57年に心筋梗塞になりまして、クラブを辞めさせていただきました。数年の在籍ではありましたが、今でもあの『四つのテスト』を良く思い出します、中でも

『みんなに公平か』は大変、私の今の仕事にも頭の中から離さない様に、これを少しでもロータリーでの、素晴らしい経験として、これからの町政に反映させて行きたいと思っております。

このクラブは大変出席率の良いクラブで、私が在籍中は100%を維持して来ました、会員にとりましては、これが大変苦しくて、私などは毎週何処かの会場探しに、苦しみの方も十分に味わいさせて頂きました、更にもうひとつあの卓話と云うのが回ってまいりますと、大変憂鬱でございまして、今は亡き林 武蔵 会員にいつも変わって頂きました。この頃、皆様と同じようなクラブなどから、卓話の依頼が多くなりましたが、その度に、もう少しロータリー時代に卓話の一つもやつておけば良かったなあと反省しております、いずれもなつかしく思い出します。

私ども湯河原町では21世紀に向いまして、『人に優しい街作り』をテーマに進めております、町民と行政とが一体となつて街作りを進めております、近く町民によるボランティアの登録制度がスタート致します、それぞれの分野で町民の皆様が地域のため、ひいてはご自分のために活躍して頂く場を作る、人材の資源の掘り起こしを進めて行きたいと思っております。ロータリーの皆様方は地域の奉仕活動の先駆者といたしまして、まだまだこれからも、指導的立場に立つていただく事は申すまでも御座いませんが、舞台は町がつくり、脚本から演技演出はすべて町民の皆様にご委ねる、これこそ真の町民の参加による町民の幸せの行政の推進であると確信をしながら、ロータリーで学んだ事を時折思い出しながら、これからの行政に向かって行きたいと思っております。

これからは町民の一人一人がロータリーと同じような、奉仕の心が芽生えて行くように、更にご活躍をお願いし、湯河原ロータリークラブの益々のご発展を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。





創立35周年によせて

第9分区代理 伊藤伸之

湯河原ロータリークラブの創立35周年にあたり心よりお慶び申し上げます。会員名簿を見てみますと今なをチャーターメンバーが4名ご健在でなおかつご活躍されている事が、今日の湯河原ロータリークラブの素晴らしい特色をだしているものと思います。

その一は出席率であります。ロータリークラブにおいて会員は出席する義務があります。当2780地区においても出席率の事で大変悩んでいるクラブがある中で、湯河原ロータリークラブは出席率100%を幾年となく続けて来ています。

その二は中途退会者が非常に少ない事であります。転勤等を除き、病気や高齢のため出席困難である場合や、事業所が湯河原以外にもあり時間のやり繰りがつかずや、やもうえず退会された以外の会員が皆無であること。

その三は大変地味なクラブであるが、団結力と協力性があることです。95~96年度交換学生受入れの際、受入れ先家庭を心配したが結果は多くの会員からの申し出があり成功した事であります。

以上三つの事例を上げさせて、頂きましたが、この様なクラブの性格はチャーターメンバーを始めとする会員一人一人が例会に出席する事により知らず知らずのうちに素晴らしい伝統を身につけて来たものと思います。

現在のロータリークラブにおいて会員増強が強く叫ばれています。湯河原ロータリークラブは

会員の移動が少ないと云う事が左記の特徴に表われていますが、湯河原町という狭い地域の中での会員増強は大変難しいと思いますが、それは出席率100%出来るかどうかと会員の質及び女性会員の入会が出て来ますが、会員の方々を見ますと若い会員も増えており、皆素晴らしいロータリアンでありますから会員増強をぜひ進めて下さるようお願い致します。

環境問題について今でこそR. I.でも取り上げて活動されていますが、湯河原ロータリークラブでは25年も前、創立10周年記念事業として箱根大観山中腹に山もみじ4,000本を植樹し、その後毎年社会奉仕活動の一環として、下草刈りを行っていますが、今では秋になると一面の紅葉となるに至った事は、会員一人一人の地味な努力が実った結果であると実感しています。

最後になりましたが、湯河原ロータリークラブ創立30周年記念誌『30年のあゆみ』の中で天野弘之初代会長が『30周年によせて』の中で『肩にあまり力が入ららなかったのが良かったんでしょうか……』と述べておられます。これが湯河原ロータリークラブの素晴らしさの原点だと思いますので、地域に密着した奉仕活動をしながら40年50年と続けて行かれることを祈念いたします。

写真は本年度I. M.での挨拶する
伊藤伸之 分区代理の晴れ姿



三十五周年によせて

初代会長 天野弘之

昭和三十六年頃、我が国ロータリーには顕著な風潮が見え始めて来ました、それ迄は比較的著名な地方都市迄を洗っていたロータリーの波が、より小さい市町に押し寄せつつありました。

そんな或る日、小田原クラブの例会に、いかめしい面持ちの二名の紳士が出席されました。中村米平ガバナーと岩崎裕彦分区代理でありました。

やがて食事が終わると中村ガバナーがやおら立ち上がり、新クラブ設立の勧誘を一しきりなさいました。その次に立たれた岩崎分区代理は、むずかしい顔を一層引きしめられて箱根・湯河原の名を出し始めました。

この頃の湯河原にはとても無理だと思い極力反対したのですが、いろいろあつた末、良く考えて見ようと前向き懸案になつてしまいました。岩崎分区代理に強引に押し切られた型で、以前から折りにふれご高配を頂いておりました東京南クラブの佐久間長吉郎ガバナーにお伺いを立てましたら、大乗り気で応援するからやれよ、とのご返事でした。

それでわと当地の地区の拡大委員だつた清瀬二郎氏（後のガバナー）にお話ししました。清瀬氏も大乗り気で、設立の手続きは一切面倒見てやるとの事でした。実際清瀬さんにはとてもお世話になりました。当時必要であつた英文で書く手続一切を引き受けて下さつた程です。

当クラブの創立が昭和三十七年四月二十日、承認が五月七日と当時としては異例の急ピッチで

ビックリ致しましたのも偏に同氏のご尽力のお蔭でした。

特別代表の宮坂寛次郎氏にも大変お世話になりました。

しかし当クラブ創立に関しては加藤福松氏のお力に負った事を忘れてはなりません、加藤氏無かりせば湯河原クラブは無かつたと申しても過言ではないでしょう。初代幹事に就任される前から、面倒なことを皆引き受けてくださいました。

そして今は亡き小沢栄三郎氏・直居重雄氏・檜原正愛氏・八亀広蔵氏・そして体調のため先般退会されました高橋柳吉氏其他のチャーターメンバーの方々は皆こころよく協力し、会の設立以前より親睦の見本を見せてくれました。

話は変わりますが、中国の書莊子に『君子の交は淡くして水の若く小人の交は甘くして醴(甘酒)の若し。君子は淡く以て親しみ小人は甘くして以て絶つ』とあります。

三十五年前湯河原ロータリークラブ創立の時この文句が心をよぎりました。

ロータリークラブも色々むずかしい事を表看板にかかげていますが、所詮は親睦団体ではないでしょうか。

ポール・ハリスも『ロータリーへの私の道』で述べています。『どうかして・・・ひとつの親睦関係つくれぬものだろうか。こういう親睦関係が出来れば、必ず互いに助け合うことになる筈です』と。

親睦とは人生に於ける珠玉なようなものです。そして友情とか友誼とかは自然発生的なもので、機会さえ得れば成育して親睦に至るものと言えます。

そして之を成熟させる機会を得ることは重要であり且幸運であると言わなければなりません。

その意味で、昭和三十四年四月二十日は画期的な日と言えます。

昨日迄一度も口をきいたことのない人々が一堂に会して初めて言葉を交しました。そしてその後三十五年間、いくつかの山川を越えながら、大したいさかいもなく仲良くやって参りました。

何故でしょうか。

それはお互いに自己の分を守り、他人の分に踏み込まず、坦々としてつき合ってきたからではないでしょうか。水のように淡白につき合っ

うちに親しみは深くなつていきます。

『ロータリーは昼飯を食べに行く所さ』とよくいわれますし、またロータリーと一緒に昼飯を食べるだけではないとも良く言われます。

しかし共に食べ歓談している間にお互いの絆は次第に拮がり太くなつて行きます。

すべての奉仕活動は親睦があつてはじめて出来ることです。旗をかざして隊伍堂々行進することも立派でしょうが、その前に先ず足下を見たいものです。

今創立三十五周年を迎えるに当って、今は亡き諸先輩、諸兄のおなつかしい温容も心の底に焼きついています。できますことならもう一度お目にかかり三十五周年を共に喜んで頂けたら、どんなに嬉しいことでしょうか。三十五年、よくこま



今日も元気でホームクラブに、毎週金曜日には、仲間との雑談が楽しみで出席する、何の話しかって！園芸の話、大根、甘藷の作付け、みかんとか釣の話、健康問題、等々、時には、例会場を変えて（湯河原胃腸病院ロビー）の一画を占拠して、話に興ずる。でも若い会員がロータリーの質問には耳を傾けアドバイスをしてくれる、ロータリーの事は実に詳しい、良き相談相手です、初代会長と初代幹事。



三十五年間の思い出

チャーターメンバー 吉光 関爾

昭和三十七年四月二十日、天野屋新館の中庭の見える美しい部屋で、湯河原 R. C. の創立総会が開催された。お天気は良かったが一寸気温が平年以下だったように思う。創立時会員は二十四人でロータリーのバッジの歯車の歯と同数とのことであつた。創立総会に全員出席したか否か覚えていないが、二十四人のうち顔見知りの人は、天野さん、平間さん、檜原さん、それに釣り場で顔見知りだつた橋本平蔵さん、元町長の故伊藤さん面識があつたかも知れない。要するにほとんどの方々は初対面であつた。あの時私がどこに座るべきか迷っていた時、隣席を私に勧めてくれた人が初対面の小沢栄三郎さんだつたのを覚えている。私はその時小沢さんの息子になつた様な気分だつた。各会員の紹介はあつた筈だが覚えていない。然し当時の私は四十才だったからすぐ憶えられた。

当初例会場は現西相信金温泉場支店の所にあつた西相信金の本店会議室であつた。食事は出前であつたので会場監督の八亀昌美さんは大変苦勞したとのことであるが私は何も知らなかつた。どんなに苦勞したかを一例で示すと、小田原の老舗から『そばずし』を取りよせてくれたことがあつた。湯河原クラブが R. I. より認承されたのは昭和三十七年五月七日であつたが、伝達式は湯河原観光会館の完成を待つて行うことになつた。それ迄は各会員手分けで、いろいろなクラブの伝達式に出席し、手本とすることになつた。私は大和クラブ、箱根クラブに出席したのを憶えている、どこに行くにも実に新鮮な気分であつた。湯河原クラブの認承状伝達式は充分時日をかけて手分けで行

われ、私は案内状の表書を振りあてられた。朝から晩迄書くのではなく、手が空いた人が集つて書いていたのだが、其の場所を憶えていない、多分観光会館であつたと思うが確かでない。確かなのは、みんな煙草を吸いながらやつているので停煙後一年半の小生もついに停煙をやめた。

チャーターナイトは登録者が千名を越える大盛会で、小生の恩師黒須巳之吉先生も御友人多数を誘つて出席して下さつた。あの時どうゆう理由でか私は誰かの命で湯浅ガバナーの車に同乗してどこかに行ったのだが、よく憶えていない。湯浅夫人と、冗談を言い合ったのを憶えているが、意味はない。

昭和三十八年学会出席のためハワイ経由米国本土に出張したのだが、その際天野さんより、先方の会長宛に手紙を書いて貰って、数クラブに出席した。私を紹介するクラブ会長さんの言葉に会員一同がどつと笑うのだが、私にはさつぱり分からない。落語に出て来る与太郎の手紙だなと苦笑する外、しかたなしだつたが、会員諸兄大変親切で助かつた。あの頃の日本人はまだ希少価値があつたのだと思う。因に1ドル360円、ホテルシングル6ドル乃至10ドルの所を利用した。バス代15セント乃至25セント、タクシーは初乗り50セントで其の後はドンドン上がり飛行場からホテルまで7~8ドルであつた、日本のタクシーは初乗り80円だったから米国の方がかなり割り高だと思つた。

ロスに居たときケネディ大統領が暗殺された、おかげで"アサシン"とか"アサシネーション"と云う言葉を憶えた。ハワイに居た頃、三池炭鉱の爆発